

## 祈りのきずな 2月

### 歴代誌下16章～エズラ記7章

和歌山教会（和歌山）牧師 調 みくに（しらべ みくに）

#### 1日(土)歴代誌下16章

幼稚園の園長をしていると、保育士から怪我をしたこどもを連れてどうしたらよいか聞かれます。初めの頃はつい小児科に連れていくことを先んじて伝えていた自分がいました。しかし今は「大丈夫だよ。よく治りますように。神さま治してください」と目の前のこどもに伝え、祈ることが大事だと教えられました。そんな経験はありませんか。彦岐教会と飛永孝・飛永永子各牧師（長崎・彦岐市）

#### 2日(日)歴代誌下17章

アサに代わり彼の息子ヨシャファトが王になります。王になると重圧ややるべきこともたくさんあったであろうに、彼はまずは真の神を求めました。私たちもつい自分の力で何もかもやらねばならないと考えてしまい、重圧を感じることはありませんか。主を求め、主のことばに従って歩いていきたいですね。久留米荒木教会と溝上哲朗牧師、吉田晃児・塚田正昭各協力牧師、山田哲也教会主事（福岡・久留米市）

#### 3日(月)歴代誌下18章

戦いを挑むか否かを問うために400人の預言者が集められましたが、その中にはアハブが嫌った預言者ミカヤがおり、彼から神のみ心が示されます。世間体に振り回される私たちはいませんか。私たちは常に何がみ心であるか、まず主の言葉を求めることが必要なのです。久留米教会と踊真一郎牧師、踊夢希教会主事、渡辺信一協力牧師（福岡・久留米市）

#### 4日(火)歴代誌下19章

無事エルサレムに戻ったヨシャファトに、先見者ハナニの子イエフが主の怒りを告げます。しかし、彼はヨシャファトが据えたアシェラ像を除き去り、揺るぎない心で神を求めた「良いこと」にも目をとめました。私たちは、時に間違ってしまうこともありますが、神さまは私たちがもう一度生きなおすときに恵みをくださるのです。

鳥栖教会と野中宏樹牧師、濱野道雄協力牧師、日比亜門主事（佐賀・鳥栖市）

#### 5日(水)歴代誌下20章

モアブ人とアンモン人はメウニム人の一部と共にヨシャファトに戦いを挑みます。ヨシャファトは人に助けを求めず、主に助けを求めました。今も地球のあちらこちらで戦いがあります。私たちは戦いが一日も早く止み、平和が訪れるよう祈りましょう。そして聖書を真摯しんしに読むことも必要です。

筑紫野南教会と原田寛牧師（福岡・筑紫野市）

#### 6日(木)歴代誌下21章

ヨラムは32歳で王となり、8年間エルサレムで王位にありましたが、主の目に悪とされることを行ない惜しまれることなく世を去った、とあります。私たちは信仰継承をどのように考えれば良いのでしょうか。目には見えませんが、変わらない主のことばを人びとの心に残していきたいものです。

筑紫野二日市教会と加来国生牧師、加来陽子音楽責任者（福岡・筑紫野市）

#### 7日(金)歴代誌下22章

ヨラム王の死後、エルサレムの住民は、ヨラムの最年少の子アハズヤを王とします。アハズヤの兄たちは皆殺されてしまっていたからです。若かったアハズヤの相談相手だった母アタルヤが悪い勧めを与えたので、彼は主の目に悪とされることを行ないます。いつも祈りながら主のみ心を求めていけますように祈りましょう。

福岡南伝道所と有吉光寛牧師、柴田公文伝道師（福岡・福岡市南区）

### 8日(土)歴代誌下23章

アハズヤの母アタルヤはアハズヤが殺された後、7年も世を治め、悪行を行ないました。次の王ヨアシュは6年もの間神殿に隠れて7歳で王になった、とあります。世を治めるリーダーに対して「否」を言うことは大変なことですが、立ち止まってその疑問や問題に向き合うことも大切なのではないのでしょうか。小さくされている人に寄り添いながら。  
春日原教会と末松隆夫・原田賢各牧師（福岡・春日市）

### 9日(日)歴代誌下24章

ヨアシュ王は祭司ヨヤダの生きている間は主の目にかなう正しいことを行ない、神殿も修復しましたが、ヨヤダの死後は一転してアシェラと偶像に仕えます。さまざまな試みの時に 私たちは困りごとに目を向けてしまい、自分だけで悩んでしまい、主イエスを見ることを忘れてしまいます。共におられる主に委ねられる私でありますように。  
篠栗教会と伊藤聡牧師（福岡・糟屋郡篠栗町）

### 10日(月)歴代誌下25章

ヨアシュが殺され、その子アマツヤが王となりました。彼は主の目に正しいことを行ないましたが、心の底からそうしたのではありませんでした。愚かにつぶやくアマツヤに、神の人は「**主はそれより多くのものを与えることができになります**」(9a)と伝えます。主の恵みを覚え、主に聴くことを選び取れますように。  
宇美教会と間村史子牧師（福岡・糟屋郡宇美町）

### 11日(火)歴代誌下26章

アマツヤの後を継いで王になったのは息子ウジヤです。神さまの祝福によりウジヤ王は名君と呼ばれるほどになり、神を畏れ敬うことを諭したゼカルヤが生きている間、神は彼を繁栄させられます。私たちも信仰をいただいた者として誰かに諭されたことがあるでしょうか。神さまの声をしっかりと聴いていける者となりますよう祈りましょう。  
粕屋教会と柳田賢吾教会主事（福岡・糟屋郡志免町）

### 12日(水)歴代誌下27章

ウ ज्या王の子ヨタムが王となり16年間エルサレムで世を治め、その間、父ウ ज्या王が行なったように主の目にかなう正しいことをことごとく行ないます。主の前に自分の道を確認なものとするは決して易しいことではありません。私たちも日々主のことばをいただきながら、主のみ心をまず求めて歩めるように祈りながら過ごしていきましょう。

和白教会と城前和徳牧師、片山寛協力牧師、洪淳奎副牧師・宣教師(福岡・糟屋郡新宮町)

### 13日(木)歴代誌下28章

ヨタム王の子アハズは主の目にかなう正しいことを行ないませんでした。具体的には偶像をつくり、自分の子をそなえものとし、神さまに対して罪を犯してしまいます。私たち(の周りで)も明らかに主の前に罪を犯していることがあります。私たちはその罪を見て見ぬふりをしていませんか。罪に対して「NO」と言える私でありたいですね。

小郡教会と下川睦子牧師、吉浦徳美教会主事(福岡・小郡市)

### 14日(金)歴代誌下29章

アハズ王の子ヒゼキヤが王になり、アハズがやった神殿損壊の修理が行なわれ、神殿における奉仕も復活します。私たちの教会、家族、自分の歩みも何度も修復しないといけない時が起こります。そのたびに主をまんなかにして再出発することができるよう、お祈りしましょう。

福岡新生教会と竹田殉聖主任牧師、竹田耶子武牧師、李聖徳、河端真理子、ジャナク・カンデル各宣教師、張磊国際関係交流主事、竹田浩協働牧師、野口和子協働伝道師(福岡・福岡市南区)

### 15日(土)歴代誌下30章

ヒゼキヤ王は、イスラエルとユダにあまねく人を遣わし、また手紙を書いてイスラエルの神、主のために過越祭を行なうように呼びかけましたが、「主に仕えなさい。主は恵み深い方だ」との手紙を読んだイスラエルの人びとは嘲り笑いました。私たちは、主のみ言葉をしっかりと受け止めているでしょうか。

須恵伝道所と竹田進一牧師(福岡・糟屋郡須恵町)

### 16日(日)歴代誌下31章

私たちもまた主にささげものをします。ささげものは多い少ないではありません。神さまの大いなる恵みに対しての応答として私たちはささげものをします。今日もささげられる献金が教会を通して必要なところに用いられていきますように祈りましょう。

ながすみ長住教会と中條じょうじ議治・中條智子各牧師（福岡・福岡市南区）

### 17日(月)歴代誌下32章

神さまに対してよいことや正しいこと、忠実なことを行なっていれば物事が上手く運ぶように思いますが、ヒゼキヤ王のこをを通して必ずしもそうとは限らないことが記されています。ヒゼキヤ王が問われたように「何を頼りにしているのか」と問われたとしたら、私たちはどうこたえていくでしょうか。

平尾教会と奥村おくむら 献けん主任牧師、青野あおの太潮・才藤千津子各協力牧師（福岡・福岡市南区）

### 18日(火)歴代誌下33章

マナセ王は父が取り壊した聖なる高台を再び築き、またバアルのために祭壇を設け主の目に悪とされることを数々行なって主の怒りを招きます。しかし、マナセ王は苦悩の中で自分の神、主に願い、先祖の神の前に深くへりくだり、祈り求めるのでした。そのマナセの姿は父ヒゼキヤ王が主の怒りに触れた時の姿と重なります。

福岡有田教会と松田和夫牧師（福岡・福岡市早良区）

### 19日(水)歴代誌下34章

ヨシヤ王は主の目にかなう正しいことを行ない、父祖ダビデの道を歩み、右にも左にもそれなかったとあります。彼の父アモンは祖父マナセにまさって偶像礼拝に走りましたが、孫のヨシヤは再び神を求めることを始めました。私たちの歩みは、問題にぶつかると右往左往することがあります。そんな時に主の言葉に聞いていけるよう祈りましょう。

田隈たがま教会と篠田しのだ裕俊牧師、坂東さかとう資朗協力牧師（福岡・福岡市早良区）

### 20日(木)歴代誌下35章

ヨシヤ王はエルサレム神殿修復時に発見した契約の書の言葉をユダのすべての人びと、エルサレムの住民、祭司、レビ人及びすべての民に読みきかせ、盛大な過越の祭りを行ないましたが、神の口から出たエジプト王ネコの言葉を聞き入れずメギド平野の戦いで死んでしまいます。主の言葉を正しく聞けるように祈りましょう。

福岡国際教会と木村公一系島集会担当牧師（福岡・福岡市中央区）

### 21日(金)歴代誌下36章

名君と呼ばれたヨシヤ王の後、ユダの国は諸外国の侵略を受けて、王は次々に交代します。最後にはペルシア王キュロスのことが記されていますが、神さまがキュロスの王の心を動かします。まさに神のご計画であるとしか考えられない事柄です。主のご計画を信じ、神さまのみ心になりますように、と祈っていきましょう。

福岡聖書教会と濱中満<sup>はまなかみつる</sup>牧師、濱中恒雄名誉牧師、濱中有希子伝道師（福岡・福岡市中央区）

### 22日(土)エズラ記1章

預言者エレミヤの言葉の成就まで約50年。ペルシア王キュロスの心を動かしたのは人ではなく、神さまでした。いったい今の世界のどこから平和が来るのかとため息が出てしまいます。そのような中でも神さまのご計画を信じて平和を求めて祈りたいです。いつも憐れみと希望を主にいただいて、み心を問いつつ今日も祈りを合わせましょう。

早良教会と加山献<sup>かやまけん</sup>牧師、K・J・シャフナー名誉牧師、今村まさる<sup>いまむらまさる</sup>協力牧師、朱承圭<sup>しゅしょうけい</sup>協力宣教師（福岡・福岡市中央区）

### 23日(日)エズラ記2章

バビロンから帰還した人びととその人数が記されています。しかしそこには見いだせない系譜や系譜の明らかではない人びとの表記があったことに痛みを覚えます。主イエス・キリストはそんな私たちの罪をあがなうために来られ十字架にかかります。今日も主の十字架の愛に<sup>の</sup>応えて復活の主と共に歩めるようお祈りしましょう。

野方<sup>の</sup>教会と広木愛<sup>ひろきあい</sup>牧師（福岡・福岡市西区）

### 24日(月)エズラ記3章

エルサレムの人びとが再出発にあたって大切にされたことは「モーセの律法に記されたところに従って祭儀を行なった」ことです。それは人びとがもう一度原点に立ち戻り再出発をしたということです。私たちの信仰生活もいつも主の恵みに立ち返り、主の愛に感謝して応答するところから出発できるようお祈りしましょう。  
インドネシア伝道と野口日宇満・野口佳奈各宣教師のために

### 25日(火)エズラ記4章

神殿再建に加わりたいと申し出た協力者を断ると、土地の人びとは建築を遅らせようと士気を鈍らせました。教会の建築や修繕はたくさんの方の祈りや思いがあってなされていくのですが、その計画も一時中断されることがありますね。その時にこそ神さまのこぼをいただきながらも一度原点に戻り、共に祈れる私たちがでありますように。  
国際ミッション・ボランティアの働きのために（佐々木和之氏・ルワンダ）

### 26日(水)エズラ記5章

神殿再建ができないユダの人びとに神さまは2人の預言者を送って彼らを励まし、工事が開始されます。ペルシア王の心を動かされた(1章)神さまは、ここでも人びとにもう一度再建に取り組む力を与えられたのです。私たちも生きていく中でいろいろなことが起きますが、どんな時にも神さまのみ心が何であるかを求め祈っていきましょう。  
シンガポール国際日本語教会（IJCS）のために

### 27日(木)エズラ記6章

「ペルシア王キュロスの命令が果たして本当かどうか確かめてほしい」との願いに、ダレイオス王はその命令が記されている文書を見つめます。やがて神殿が完成し、人びとは喜びに満ちて7日の間、種入れぬパンの祭りを行ないました。神さまが喜びをくださいました。私たちも心を合わせ神さまの国が来ますようにと今日も祈りましょう。  
BWA i d（世界バプテスト連盟 救援委員会）のために

## 28日(金)エズラ記7章

エズラの家系や役職、活動の時期や内容などが記されています。エズラが神の慈しみ深いみ手の加護を受けて歩んだということです。私たちは神さまから与えられている人生をどのように歩んだらよいのでしょうか。神さまの愛をいただいた私たちが隣人と「共に生きようとする」時、いったい隣人とは誰のことでしょうか。考えてみましょう。APBA id (アジア太平洋バプテスト連盟 救援委員会) のために

### 第16回「6・23『沖縄(命どう宝)の日』学習ツアー」ご案内(第1信)

日程：2025年6月21日(土)～24日(火)

<おもなプログラム> (プログラムについては、変更する場合があります)

6月21日(土) 14:00 那覇新都心教会 受付(ゆいレール:古島駅から徒歩10分)  
〒900-0004 沖縄県那覇市銘苅3-21-46 Tel:098-941-2901 \*空港から会場的那覇新都心教会までは約1時間です

オリエンテーション・自己紹介、合同平和礼拝(沖縄バプテスト連盟[OBC] 社会委員会主催)参加

22日(日) OBC 教会と那覇新都心教会礼拝出席、OBC 女性会と交流会・講演会

23日(月) 南風原文化センター見学、平和祈念公園(平和の礎、平和祈念資料館)見学、魂魄の塔(国際反戦集会参加[自由])、佐喜真美術館、「普天間基地ゲート前ゴスペルを歌う会」参加(自由)

24日(火) 辺野古、汀間漁港(グラスボート乗船)、分かち合い

\*事前オリエンテーションをオンラインにて5月31日(土・午前)に行う予定です。

\*募集人数：**25名(女性会以外の方も歓迎)**

・申し込み順に受付、募集定員になり次第締切(詳細はホームページお問い合わせフォーム、または事務局にお問い合わせください)。

\*参加費用：**約15,000円**(貸切バス2日分・入場料・昼食3回、夕食1回ほか)

・参加費は現地受付にて徴収。旅費、宿泊費用は個人手配・個人負担。

\*申込方法：**2月3日(月)より受付**(2月2日以前に送られたものは受付できません)。

・申込書に必要事項を記載し、女性連合事務局にFAXでお申し込みください。申込書は全国発送で各教会・伝道所にお送りしています。また女性連合ホームページからダウンロードもできます。手続き方法などはあらかじめご確認ください。